

予 算 要 求 資 料

令和4年度当初予算 支出科目 款：農林水産業費 項：林業費 目：県産材流通対策費

事業名 東京オリンピック・パラリンピック県産木材 ブランド力活用事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

林政部 県産材流通課 販路拡大係 電話番号：058-272-1111 (内 3015)

E-mail: c11545@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 5,957 千円 (前年度予算額：5,110 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	5,110	1,712	0	0	0	0	933	0	2,465
要求額	5,957	2,707	0	0	0	0	0	0	3,250
決定額	5,957	2,707	0	0	0	0	0	0	3,250

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

- ・2021年に開催された東京オリンピック・パラリンピック競技大会では、メイン会場となる新国立競技場をはじめ、選手村ビレッジプラザで県産木材が活用され、本県の優れた木材資源と加工技術を国内のみならず海外に向けてPRを行うことができた。
- ・選手村ビレッジプラザの施設解体後、返却される提供木材をレガシーとして効果的に後利用することで、東京オリ・パラ参画の証としてその魅力をPRし地域ブランド力の向上を図り、県産材の利用拡大につなげる必要がある。
- ・このため、県と6市町村及び県・民間企業・団体に構成する「岐阜県「東京オリ・パラ」県産木材利用促進協議会」と連携し、提供木材の後利用を活かした県産材の効果的なPRについて検討する。
- ・また、東京オリ・パラの採用実績を活かし、国内外での県産材の販路拡大に取り組んでいく必要がある。

(2) 事業内容

①後利用に係る打合せ・検討会開催等経費 (328 千円)

- ・東京オリ・パラ組織委員会や関係団体との打合せ等にかかる経費

- ・協議会の運営等に係る経費
- ・後利用に係る検討会開催等経費
- ②選手村ビレッジプラザ提供木材の運搬管理経費（3,444千円）
- ・選手村ビレッジプラザ返却木材にかかる後利用に供するまでの間の保管・品質管理に係る経費。また、劣化木材の処分費
- ③県産木材東京オリ・パラ施設採用実績活用事業費（2,185千円）
- ・首都圏における非住宅建築物の木材需要を取り込み、県産材の更なる販路拡大を図るため、首都圏の設計者等と県内木材供給事業者による県産材の展示・商談会を開催する。

(3) 県負担・補助率の考え方

- ・すべて県の負担

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	42	業務旅費、費用弁償
旅費	278	費用弁償、業務旅費
需用費	60	消耗品費、会議費
役務費	7	郵便、電話
委託料	5,534	提供木材の保管管理業務、展示・商談会開催業務
使用料	36	協議会、後利用検討会会場借上費
合計	5,957	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

県産材の販路拡大は第4期岐阜県森林づくり基本計画において「都市の木造化・脱炭素社会補実現に向けた県産材の需要拡大」に位置づけられている。

(2) 後年度の財政負担

令和3年度に後利用方針決定後、翌年度以降に後利用を実施する。

(3) 事業主体及びその妥当性

選手村ビレッジプラザへの木材提供事業は、県先導のもと行ってきたものであることから、後利用についても県が主体となって、関係市町村・団体と連携して進めていく必要がある。

事業評価調書（県単独補助金除く）

<input type="checkbox"/> 新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
 東京オリンピック・パラリンピック競技大会終了後、選手村ビレッジプラザへ提供した木材を、本県の大会参画の証として後利用することにより、同時に県内外へその魅力をPRし、県産木材のブランド力の向上と販路拡大につなげる。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R2)	R2年度 実績	R3年度 目標	R4年度 目標	終期目標 (R8)	達成率
県内における県産材 需要量（千 m3）	425	425	—	481	606	

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和 2 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・「岐阜県『東京オリ・パラ』県産木材利用促進協議会」会員企業が営業活動でPR ・WOOD コレクション 2020in あいち（R2.11.21～22 愛知県）等各種展示会でPR ・非住宅建築物の木造化に向けた低コストマニュアル・事例集への掲載 ・台湾オンラインセミナー&商談会（R2.10.31 岐阜市）でPR ・台北国際建築建材及び産品展（R2.12.10～13 台湾台北）でPR
令和 3 年度	令和5年度当初予算にて追加
令和 4 年度	令和6年度当初予算にて追加

指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%

指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・ 事業の必要性（社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断） <small>3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</small></p>	
<p>(評価) 3</p>	<p>東京オリンピック・パラリンピックは国内のみならず全世界が注目するイベントであり、その代表的な施設である選手村ビレッジプラザの建材として用いられた県産木材の効果的な後利用は、地域ブランドとしてのPR効果が図られ、波及効果は非常に大きい。</p>
<p>・ 事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） <small>3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：まだ期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない</small></p>	
<p>(評価) 1</p>	<p>選手村ビレッジプラザの提供木の後利用は現在検討中であることから、まだ効果が得られていない。</p>
<p>・ 事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） <small>2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</small></p>	
<p>(評価) 2</p>	<p>後利用検討に係る費用等、必要最小限の経費を計上しているが、返却された提供木材を効果的に後利用されれば、東京オリ・パラの参画の証としてだけでなく、県産木材のブランド力の向上及び利用拡大などの効果が見込まれる。</p>

(今後の課題)

<p>東京オリ・パラ参画の証（ウッドレガシー）として県産木材の魅力を長期的にわたってPRしていく必要がある。</p>
--

(次年度の方向性)

<p>選手村ビレッジプラザの提供木（ウッドレガシー）の効果的な活用等を通して、県産木材のPRをするとともに、国内外での販路拡大につなげる。</p>

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課</p>	【〇〇課】
<p>組み合わせて実施する理由や期待する効果 など</p>	